

## 小学2年生 生活科 「ふるさとたんけん」

「OneDrive」と「マチアルキ」を利用した学習支援

新城市立鳳来寺小学校 教諭 鈴木 英之

キーワード：小学校、2年生、生活科、OneDrive、マチアルキ

### 実践の概要

学区について理解するため、昔話をもとにした「ふるさとたんけん」を行った。昔話調べにおいて、「OneDrive」を利用して、教室と家庭での教材の共有化を図った。探検のまとめを「マチアルキ」のデータとすることで、学習への意欲付けを図った。

### 1. 目的・目標

#### (1) 学区の様子

本校は、愛知県東三河北部の山間部にある学校である。自然豊かな環境で、地域に残る昔話も豊富である。しかし、過疎化・高齢化が進んでいる地域であり、このままでは地域に残る昔話も伝える者がいなくなってしまう。昔話は、地域を理解する上で大切な資料であり、昔話の場所を巡ることは、子どもたちにとって、地域を知る良い学習となると考え、「ふるさとたんけん」を行った。

#### (2) 情報の共有化と発信

昔話の資料はあっても、読めない漢字が多く、子どもたちが共有するのは難しい。そこで「OneDrive」に資料をアップし、保護者の協力を得て、家庭での昔話調べを行った。また、学習の成果を発信する手段として「マチアルキ」を利用した。

### 2. 実践内容

#### 2.1 「OneDrive」の利用

昔話の資料としては、「鳳来町誌 民族資料編 (2)伝説と民話」などがあるが、子どもたちが共有するのは難しく、また小学2年生では読むことも難しい。子どもたちに、家庭でのインターネット利用環境を確認したとこ

ろ、どの家庭でもタブレットやスマホ、PCなどでインターネットの利用が可能であることが分かった。そこで、オンラインストレージである

Microsoft社の「OneDrive」に、資料をアップすることで、家庭での昔話調べが可能にすることを考えた(図1)。「OneDrive」へのアクセスの仕方については、学校からの通信やメール配信で伝えた。

学校と家庭で同様の学習環境を構築できたことで、家庭での昔話調べが可能となった。保護者が、子どもに昔話を読み解き伝えることは、子どもの学習意欲を喚起す

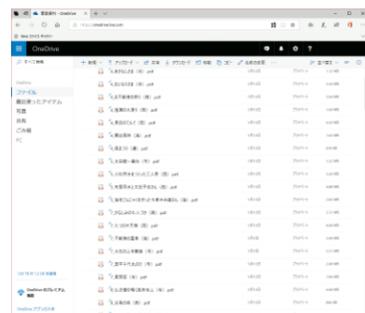


図1 「OneDrive」Web上画面



写真1 鳳来寺山での「ふるさとたんけん」

るだけでなく、保護者にとっても地域を再発見する機会となった。

「ふるさとたんけん」の日程が決まると、地域ごとに、保護者からのガイドの申し出があった。

身近な方がガイドを務めてくださったことで、子どもたちは質問がしやすく、地域理解が進み、地域への愛着を感じる活動となった。

「ふるさとたんけん」で、学区について知識を広げた子どもたちは、探検のまとめをしていく中で、他の人にも伝えたいと考えるようになった。そこで、1年生に向けて、昔話発表会を行った。

#### 2.2 「マチアルキ」の利用

今回、東京書籍の「マチアルキ」をモニターとして利用した。これは、ARスタンプラリーを作成、利用するためのツールである。

子どもたちが訪れた昔話の場所を地点登録しておくことで、その場所で、「マチアルキ」アプリをインストールしたスマホやタブレットなどをかざすことで、登録して



写真2 「マチアルキ」利用場面

おいた情報を得ることができる(写真2)。登録情報は、子どもたちの作成した文書をスキャナーで読み込みデータ化したものである。

「マチアルキ」は子どもたちの学習成果の幅広く発表・発信を行うのに有効なツールであると考えられている。

さらに、家庭の協力を得て、夏休み中に、スマホやタブレットを持って「マチアルキ」を行ってもらった。

ARスタンプラリーに自分の作品が掲載されることは、子どもたちにとって学習意欲の喚起に繋がった。

また、お家の方と一緒に「マチアルキ」をしたことは、クラスでの探検とは違った発見をする機会となったり、自分たちの調べを保護者と共有する機会となり、楽しいものとなった。

### 3. 成果

昔話を調べ始めたころは、家に資料がなく、調べられないという子もいたが、「OneDrive」に資料をアップしたことで、どの子も家庭で調べることができるようになった。

また、「ふるさとたんけん」の日程が決まると、「お父さんが案内してくれるよ」「お母さんが教えてくれるよ」と地域ごとに、ガイドの申し出があった。これは、「OneDrive」の活用により学習内容の共有化が図られた結果、学習に対する保護者の理解が進んだ結果であろう。

1年生に向けて昔話発表会(写真3)を行ったところ、「わたしも行ってみたい」という声が上がった。そこで、「マチアルキ」の説明書を用意し、他学年の子どもたち

にも紹介した。また、学校を訪れる方にも参加してもらえるよう、説明書を増刷した。



写真3 昔話発表会

夏休みが近づくと、

「お母さんが『マチアルキ』を入れてくれたよ」「ぼくのところも入れたよ」との声が子どもたちから聞こえてきた。

夏休みの日記からは、「スタンプラリーをやって、スタンプをゲットしたら自分の書いたのが出てきてうれしかった。」「たんけんに行ったときより、滝の水が減っていて、驚いた」という満足感や新たな気づきがうかがえた。

自分たちの調べをさらに多くの人に知ってもらいたいと、調べた昔話をもとに、劇化し、2学期の学芸会で発表をした。劇を見た地域の方からは、「子どもの頃、聞いた話を思い出した。よく調べたね。」とお褒めの言葉をいただいた。

### 4. 今後に向けて

今回の実践は、「OneDrive」や「マチアルキ」といったICTツールの活用により、子どもたちの学習意欲が喚起された例と言えよう。

1学期に行った「ふるさとたんけん」、夏休み中の「マチアルキ」体験から、2学期の学芸会への準備では、昔話の劇化のために取材の必要性への気づき、取材事項を書き出し、取り組むことができた。また、どのように劇化すればよいか、場面にあわせて演技の仕方を工夫し、道具を作成した。学芸会の発表を終えた後の子どもたちの表情は、達成感に満ちていた。

「マチアルキ」については、地域の魅力発信の一手段として捉え、運動会や学芸会での紹介や説明書の配布を行ったが、地域の方に十分周知してもらうまでにはならなかった。

今後、学校教育でのICT活用は進んでいくと思われる。過疎化、高齢化に悩む地域の活性化のための手だてとして、子どもたちが地域に参画できる手段の一つとして、研究、実践を進めていきたい。

学習活動	子供活動	指導上の留意点
「OneDrive」にアップした資料を参考に、昔話調べをする。	家庭での調べをもとに、昔話をわかりやすく友だちに伝える。	昔話の舞台となった場所についても確認する。
子どもたちの調べをもとに、昔話の場所を探検する。	昔話の場所へ行くまでに、地域の様子や動植物について観察する。	メモを取るだけでなく、写真も撮影することで、まとめ作りに役立つ。
1年生に、調べた昔話を発表する。	1年生が、わかりやすいよう、準備して取り組む。	よりよい発表ができるよう、練習中に互いに助言をする。
昔話の場所をもう一度探検する。	保護者と一緒にスタンプラリーを行う。	懇談会を通して、スタンプラリーへ協力をお願いする。
昔話を、地域の方に知ってもらえるよう取り組む。	調べた昔話を劇化するための調べや準備をする。	劇化のための、取材の必要性を捉えさせる。

【「ふるさとたんけん」単元構想】

- 指導目標／・校区の昔話を調べることを通して、自分と身近な人々、校区の様子について知り、よさに気づくことができる。
- ・昔話を家の人や地域の方に聞いたり、現地へ行って見たりすることを通して校区のよさを知り、調べたことを表現することの楽しさを知る。
- ・調べたことを表現し伝える中で、自分の発表を振り返り、わかりやすく伝えるために工夫することができる。
- 評価／調べたことを表現し伝える中で、自分の活動を振り返り、わかりやすく伝えるために工夫することができたか。

【指導略案】

- 単元指導計画(全体時間25時間)
- (1) 昔話を調べよう (3時間)
- (2) 昔話の場所をたんけんしよう (12時間)
- (3) 1年生に調べたことを発表しよう (3時間)
- (4) 昔話の場所へもう一度行ってみよう (夏休み)
- (5) もっと多くの人に知ってもらおう (1時間)
- (6) 昔話を劇にしよう (6時間)